

■著者紹介

船山 泰範（ふなやま・やすのり）

1946年生。日本大学法学部卒業。現在、日本大学法学部教授。

人間学としての刑法を目指し、刑法が国民のためになるにはどうしたらよいかを追究している。民主的な社会を実現するための方策として、刑法を位置づけている。大学のゼミナールでは模擬裁判を鋭意進め、小・中・高生とも実施している。若い世代が法の理念や目的を学ぶことを通して、自らの人間性を高めるきっかけとなるよう、「法育」を推進している。

主著に『刑法の礎・総論』（法律文化社）、『刑法がわかった』（法学書院）、『図解雑学刑法』（ナツメ社）、『刑法学講話〔総論〕』（成文堂）、編著に『刑事法入門』（弘文堂）、共著に『福島原発、裁かれないでいいのか』（朝日新聞出版）、論文集として、『刑法の役割と過失犯論』（北樹出版）がある。